

大人が、できることは…？

- ケンカになりそうな話は、
子どもがいない時間と場所です。
 - お酒を飲んでいる時は、感情的になり
やすいので、暴力・暴言につながら
ないように、特に気をつける。
 - イライラした時は、その場から離れる。
例えば… 一旦どちらかが家を出て
気分転換をして家に戻る。
 - 親族や友人、支援機関などの第三者に
相談をする。 など
- 暴力・暴言を避ける方法を、大人が
話し合って事前に決めておきましょう。



子どもを守るために…

**家庭内の暴力・暴言を見聞き
することは、子どもに
重大な影響があることを知り、
安心できる環境を作ることが
最優先です！**



大阪府中央子ども家庭センター
072-828-0161
大阪府池田子ども家庭センター
072-751-2858
大阪府吹田子ども家庭センター
06-6389-3526
大阪府東大阪子ども家庭センター
06-6721-1966
大阪府富田林子ども家庭センター
0721-25-1131
大阪府岸和田子ども家庭センター
072-445-3977

受付：月～金曜 9:00～17:45
(土曜日、日曜日、祝日、年末年始を除く)

児童相談所虐待対応ダイヤル
「189」
(365日24時間対応)



家庭内の暴力・暴言が与え
る子どもへの影響

いろいろな家庭内の暴力・暴言

子どもがいる家庭内で行われる、大人と大人の暴力・暴言にはいろいろな形があります。

- 夫婦間の一方的な身体的な暴力
- 夫婦間の精神的な暴力（どなる、おどす）
- 元夫婦間でお互いに手が出る
- 恋人とのケンカ など

DVとは…？

DVとは、夫婦、恋人、婚約者、元夫婦、元恋人等の親密な関係で振られる暴力のことを言います。

- 身体的な暴力（殴る蹴る、首をしめる）
- 精神的な暴力（どなる、おどす、バカにする）
- 経済的な暴力（生活費を渡さない）
- 社会的な暴力（外部との付き合いを制限する）
- 性的な暴力（望まないSEXを強要する
／避妊に協力しない）

その時、子どもの様子は…？

- 泣いている
- 暴力を止めようとする
- だまってその様子を見ている など

家庭内の暴力・暴言を見聞きする

ことは子どもにとって

「心理的虐待」になります！

暴力・暴言を見聞きすることは

子どもに重大な影響を与えます

こころへの影響

- ケンカしている場面を急に思い出す
- 自分のせいでケンカをしていると思う
- 自分を無力だと思い自信が持てない
- イライラしやすい
- 困っていることを家で話せない



子どもへの影響

行動への影響

- 赤ちゃん返りする
- 暴力はしても良いものだと思います、園や学校で暴力的なことをする
- 学校に適應しにくくなる



からだへの影響

- よく眠れずに、朝起きられない
- 集中力がない、落ち着きがない
- ボーッとしている
- 頭痛や腹痛など身体の不調を訴える
- 脳の成長に深刻な影響がでる



- ケンカの声や音を聞くことは、見ていなくても子どもに重大な影響を与えます！！
- 子どもが小さい赤ちゃんだとしても、家庭内のケンカに巻き込まれ、ケガをする場合があります。
- 小学校低学年では落ち着きがない、高学年では気持ちを抑えがち、中学校では学校に適應しにくいなど、年齢によってあらわれ方は異なります。